

## 平成29年度 第56回岐阜県学校保健研究大会を終えて (第38回東海ブロック学校保健研究大会)

海津市学校保健会

10月22日、海津市文化センターにおいて、県内外から約400名の学校保健関係者の方の参加



を得て、第56回岐阜県学校保健研究大会及び第38回東海ブロック学校保健研究大会を開催いたしました。

開会式では、岐阜県学校保健会会長の河合直樹様のご挨拶や来賓の海津市市長松永清彦様のご祝辞をいただく中、盛会に行うことができました。その後、平成29年度の岐阜県学校保健会表彰と学校環境衛生活動優良校の表彰を行いました。

次いで、「健康で安全な生活習慣を身につける児童・生徒の育成をめざして」という大会テーマのもと、二部構成で研究発表を行いました。

第一部の研究発表では、海津市の養護教諭部会より、「養護教諭の専門性を生かした健康教育の在り方～いのちを大切に育てる児童生徒の育成(性に関する指導を通して)～」の研究テーマのもと、養護教諭の専門性を生かした性に関する指導の在り方について発表を行いました。その発表では、授業を行う前の事前のアンケート調査の結果をもとにして児童生徒の実態の分析を行い、指導の方向を決めだしていくこと。児童生徒の発達段階や他教科との関連を考慮し、9年間を見通した意図的、計画的な指導を行うこと。また、授業後に児童生徒の変容を見届けることや、保護者の理解や協力のもとに、性に関する指導を行うことの大切さやその有効性について発表されました。

第二部の研究発表では、海津市医師会の学校医代表の寺倉俊勝先生より、「結核・学校の対応」の研究テーマのもと、現在の結核の状況や学校で取るべき対応方法について発表をされました。

た。その発表では、過去の疾病のように思われがちな結核という疾病が、罹患率は減って来てはいるものの、新たな感染経路が発生していることや、一度学校で発生した場合には、重大かつ慎重な対応が要求されることについて、学校における結核対策マニュアルのフローチャートをもとに、学校の取るべき対応について詳しく説明をいただいた。

お昼のアトラクションでは、海津市の「平田千代保太鼓保存会」の児童生徒より、和太鼓の醍醐味でもある締太鼓の「地」に載せた、中太鼓、大太鼓の力強くかつスピーディーなアンサンブルが、大きなうねりと響きとなってホール内に響き渡りました。

午後からの記念講演では、海津市出身でもある中京大学スポーツ科学部競技スポーツ科学科の近藤良享教授をお招きし、「大人の責任、フェアプレイ～フェアな子どもを育てるために～」のテーマのもと、講演をいただきました。国や文化による「フェア」というものに対する考え方の違いや、スポーツ活動における「フェアプレイ」のもつ大切などについてご講演をいただきました。そして、何よりも、フェアな子どもにするためには、大人が正しくスポーツを伝えることが重要であることについて、参加講義型の講演会の中で、一緒に考えるよい機会となりました。

このように、とても有意義で大変充実した大会となりましたのも、関係者の皆様の多大なるご協力とご支援の賜と心より感謝いたします。私たち海津市学校保健会も、この研究大会を財産とするとともに、これからも、調査・研究・研修を進め、児童・生徒及び職員の健康の保持増進、並びに保健教育の振興に努めたいと思います。

最後に、今後も岐阜県学校保健教育のますますのご発展を祈念いたしまして、第56回岐阜県学校保健会及び第38回東海ブロック学校保健研究大会の報告と致します。